

2.5.3 北部クイーンズランド州

クイーンズランド州における農林漁業の状況は次の通り。

図 60 クイーンズランド州における地域別の農林漁業の状況



出典 State of Queensland agriculture report/June 2014/Department of Agriculture, Fisheries and Forestry

クイーンズランド州における野菜の生産状況は次の通り。

図 61 クイーンズランド州における野菜の生産状況

種類	野菜名	生産額 (ドル)	生産面積 (ヘクタール)	農地数	生産量 (トン)
アブラナ科	ブロッコリー	20,518,127	1,556	98	8,732
	芽キャベツ	411,456	11	9	91
	キャベツ	9,915,644	537	100	20,076
	カリフラワー	12,482,002	856	76	19,860
	白菜(チンゲン菜、白菜)	20,795,314	304	42	5,790
ウリ科	キュウリ	10,837,654	219	112	5,397
	ハネデューメロン	3,282,329	206	7	3,309
	カボチャ、トリアンブル、トロンボーン等	27,732,577	2,904	454	42,614
	ロックメロン、カンタループ	30,464,274	1,237	30	29,906
	スイカ	41,723,710	2,300	188	60,088
	ズッキーニ、マロー、トウナス	49,356,503	1,623	170	17,651
結実野菜	トウガラシ、チリ・ペッパー、コショウ	91,979,134	1,722	166	38,913
	ナス	8,887,201	257	67	5,351
	トマト	187,866,419	2,749	179	138,152
ハーブ類	ハーブ- その他(バジル、コリアンダー等)	5,081,675	52	104	658
	パセリ	1,861,153	43	101	404
葉物野菜	レタス	70,647,387	2,293	146	55,961
	フダン草、ハウレンソウ	14,200,145	571	86	3,451
その他野菜	アスパラガス	150,203	15	5	15
	ビートの根	11,973,980	1,366	72	39,888
	インゲンマメ	2,281,251	143	32	523
	ニンジン	22,228,968	1,018	62	29,940
	セロリ	9,635,436	232	26	12,811
	サヤインゲン、ベニバナインゲン	50,337,593	3,001	86	14,127
	ニンニク	177,929	10	15	9
	ショウガ	33,044,865	226	41	8,066
	グリーンピース	689,993	45	10	158
	セイヨウネギ	1,647,507	34	25	624
	マッシュルーム	21,355,089	13	22	2,987
	タマネギ- 合計(白、茶、赤)	28,238,508	804	112	25,525
	ラディッシュ	385,067	8	31	97
	サヤエンドウ	10,512,545	227	83	1,135
	新タマネギ、エシャロット	14,194,629	241	35	3,621
	スイートコーン	17,888,876	1,495	65	14,299
	サツマイモ	43,968,635	1,544	101	36,199
	イモ類	ジャガイモ	54,109,144	3,468	153
合計		930,862,922	33,330	1,119*	744,008

出典 Vegetable Production in Queensland/Horticulture Australia

北部クイーンズランドにおける季節別の農産物の栽培の状況は次の通り。

図 62 北部クイーンズランドにおける季節別の農産物の栽培の状況

商品/農産物	季節性/収穫時期											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
野菜およびハーブ												
アルファルファ												
タケノコ												
バジル												
豆 (Bowen地域)												
ブロッコリー												
キャベツ												
トウガラシ属 (Capsicum)												
トウガラシ属 (Chillies)												
白菜												
キュウリ												
ショウガ												
ショウガ (ガランガル)												
葉菜 - アジア												
レタス、ルッコラ/サラダミックス												
マッシュルーム (高級)												
タマネギ												
ジャガイモ												
カボチャ												
大豆												
ホウレンソウ												
スカッシュ												
スイートコーン (Bowen地域)												
サツマイモ												
タロイモ												
トマト												
ターメリック												
ズッキーニ												

その他の作物と収穫時期

コーヒー												
マカダミア												
ピーナッツ												
バナナビーンズ												

出典 クイーンズランド州政府貿易・投資庁

図 63 北部クイーンズランドにおける季節別の農産物の栽培の状況(つづき)

商品/農産物	季節性/収穫時期											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
アボカド												
カスタードアップル												
ドラゴンフルーツ / ピタヤ												
グレープフルーツ												
グアバ												
バナナ												
レモン												
ライム												
龍眼												
ライチ												
マンダリン												
マンゴー												
パパイヤ(ポポー)												
パッションフルーツ												
柿												
パイナップル												
ザボン												
ロックメロン												
イチゴ												
スイカ												

マイナーな果物

ブルーベリー												
ジャックフルーツ												
マンゴスチン												
ランブータン												
ロリニア												
サボジラ												
サポテ(ブラック)												
サワーソップ												
スターアップル												

豪州原産の果物

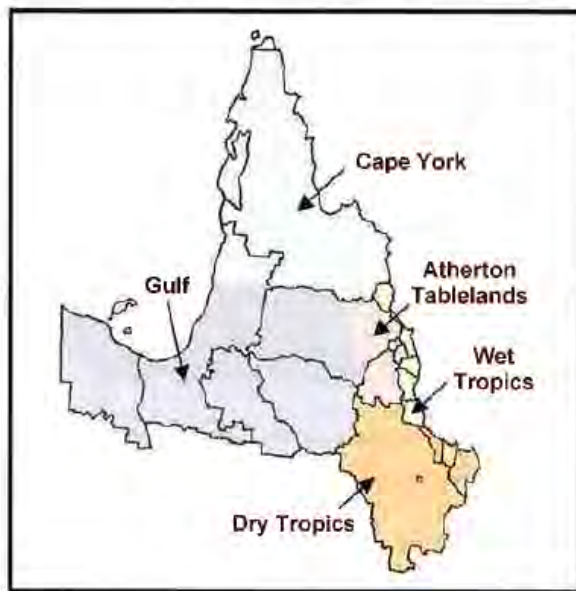
デビッドソンズプラム												
フィンガーライム												
レモンアスペン												
レモンマートル												
レインフォレストタマリンド												
シジギウム												

出典 クイーンズランド州政府貿易・投資庁

北部クイーンズランドは、気候に基づき、次の5つに分類されている。

図 64 北部クイーンズランドの気候による区分

- **Dry Tropics** – includes Burdekin, Townsville, and Charters Towers
- **Wet Tropics** – includes Hinchinbrook, Cassowary Coast, and Cairns
- **Atherton Tablelands** – includes part of Tablelands
- **Cape York** – includes Cook, Aurukun, Torres and part of Carpentaria
- **Gulf** – includes Burke, Mornington, part of Carpentaria, Croydon, Etheridge and part of Tablelands.



出典 Queensland Primary Industries & Fisheries’s north region/Queensland Government

Dry Tropics に分類される地域の気候の状況は次の通り。

図 65 Dry Tropics に分類される地域の気候の状況

Sub-region	Temperature		Rainfall		
	Max °C	Min °C	Average (mm)	Decile 9 (mm)	Decile 1 (mm)
<i>Dry Tropics</i>					
Twin Hills	30.5	15.2	615.4	928.6	327.9
Bowen	28.6	19.8	952.0	1737.7	483.0
Ayr	28.9	17.8	954.4	1486.8	484.9
Collinsville	29.9	16.2	718	1139.91	460.5
Charters Towers	30.1	17.1	659.5	1003.2	352.7
Townsville	28.8	19.7	1144.1	1761.6	597.8
Average	29.47	17.63	840.57	1342.97	451.13

出典 Queensland Primary Industries & Fisheries’s north region/Queensland Government

この小地区の沿岸部の地形に広がる広大なデルタ、土手及び氾濫原は、典型的に、沿岸地域に沿ってマンガローブと塩類湖底に通じる緩やかに傾斜した沖積平野である。

地下水は、当該地域における初期の農業開発にとって主要な原動力であった。現在、2つの水道委員会が、地下水の水位を維持し、海水の浸水を防ぐために、バーディキン・デルタ(Burdekin Delta)の地下水システムへのリチャージを管理している。約4万3,150haの深く、肥沃な砂状埴壤土は、サトウキビ灌漑生産の下支えとなっている。生産者は現在、輪作の確立に着手するとともに、交互作に手を広げ始めている。当該地域には専門的な野菜及びマンゴー農家が存在する。

約3万5,000haから成るバーディキン川灌漑地域(Burdekin River Irrigation Area)は、1988年にBurdekin Fallsダムの建設に伴って創設された。これまでは米の生産に使用されてきたが、現在は主にサトウキビの向けに使用されている「重粘土の氾濫原土壌に関するスキーム(灌漑地域における生産性向上プロジェクト)」が展開されている。

年間約800万トンのサトウキビが、Lower Burdekin地域のCSR社が所有する4か所の精製所で圧搾される。当該地域ではクィーンズランド州のサトウキビ収量の約25%が生産されている。

沿岸平野の他の地域では、園芸作物(野菜と樹木作物の両方)が、地下水へのアクセスを元に栽培されている。沿岸平野は主要なマンゴー生産地域でもある。

この小地区においては、主要なエビや魚の水産養殖の発展に対する関心が高まり続けている。3つの粗放養殖事業は、開発の様々な段階において、約285haの地域をカバーすることになる。

Dry Tropicsに位置するバーディキン地域の農産物の生産状況は次の通り。

図 66 バーディキン地域の農産物の生産状況(2007-2008年度)

農業活動	概要			収穫時期											
	面積(ha)	販売量	粗利益(\$)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1 豆(生)	800.00	9,611.11 Tonnes	12,456,000.00												
2 トウガラシ属(Capsiums)	130.00	3,744.00 Tonnes	7,020,000.00												
3 畜牛	943,903.00	20,532.00 Head	8,614,395.00												
4 綿	760.00	5,320.00 Bales	2,282,280.00												
5 ナス	100.00	5,000.00 Tonnes	10,000,000.00												
6 ブドウ(食用)	50.00	888.06 Tonnes	2,500,000.00												
7 カボチャ	700.00	8,400.00 Tonnes	5,628,000.00												
8 マンゴー	1,500.00	22,050.00 Tonnes	50,715,000.00												
9 トウモロコシ	3,000.00	22,500.00 Tonnes	6,750,000.00												
10 緑豆	400.00	500.00 Tonnes	430,500.00												
11 白インゲンマメ	350.00	525.00 Tonnes	472,500.00												
12 ロック/ハネデューメロン	400.00	17,857.14 Tonnes	15,810,000.00												
13 大豆	2,000.00	5,000.00 Tonnes	2,500,000.00												
14 スイートコーン	600.00	11,111.11 Tonnes	11,064,000.00												
15 砂糖	83,815.20	8,225,064.96 Tonnes	254,170,967.39												
16 スイカ	340.00	12,750.00 Tonnes	10,200,000.00												
17 ズッキーニ	100.00	1,600.00 Tonnes	3,842,000.00												
	1,039,148.20		\$404,455,632.39	注意:一部の地域では二毛作が行われている											

出典 Queensland Primary Industries & Fisheries's north region/Queensland Government

Wet Tropicsに分類される地域の気候の状況は次の通り。

図 67 Wet Tropics に分類される地域の気候の状況

Sub-region	Temperature		Rainfall		
	Max °C	Min °C	Average (mm)	Decile 9 (mm)	Decile 1 (mm)
Wet Tropics					
Cardwell	28.8	18.8	2130.7	2972.5	1385.7
South Johnstone	28.0	19.0	3332.2	4568.7	2167.8
Innisfail	27.9	19.2	3580.0	4765.6	2574.3
Cairns	28.9	20.7	2023.2	2785.8	1362.6
Port Douglas	27.9	20.6	2009.2	2751.5	1268.2
Average	28.3	19.66	2615.06	3568.82	1751.72

出典 Queensland Primary Industries & Fisheries's north region/Queensland Government

マングローブ、サムファイア、ブナ、ツル林などの群落は、塩分のある河口平野及び隣接する沿岸地形に発生する。湿地帯は主に、海岸の陸地、沖積・崩積土平野、氾濫原、河川デルタ及び流れの速い小川に存在する。この小地区のうち、180万 ha 超を占める18か所がクィーンズランド州にとって環境的に重要であると考えられており、6万1,470haを占める3か所が国にとって重要であると考えられている。

熱帯雨林とユーカリ林はともに、深紅のカンドソル土壌によって支えられている。これらの地域では、歴史的に1880年代頃から木材の伐採が行われていた。開墾後、土壌は作付けに適したものとなったが、斜面上の水食問題が起こりやすくなっている。現在、かなりの領域でサウキビが栽培されており、土壌浸食を最小限に抑えるため、栽培には、グリーンケーン収穫と残さによる土壌表面の被覆(green cane trash blanket)アプローチが用いられている。

Wet Tropics 地域の農産物の生産状況は次の通り。

図 68 Wet Tropics 地域の農産物の生産状況(2007-2008年度)

農業活動	概要			収穫時期											
	面積(ha)	販売量	粗利益(\$)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1 養殖	312.90	1,712.20 Tonnes	20,986,659.00												
2 バナナ	9,080.00	290,687.04 Tonnes	381,761,489.45												
3 畜産業	474,633.00	36,050.00 Head	24,730,300.00												
4 ドリアン	100.00														
5 イネ科/マメ科種子	175.00	290.88 Tonnes	584,575.14												
6 龍眼	50.00														
7 ライチ	120.00	648.00 Tonnes	3,240,000.00												
8 マンゴスチン	50.00														
9 その他熱帯樹果実	100.00														
10 パパイア	70.00	7,371.00 Tonnes	9,639,000.00												
11 パッションフルーツ	120.00	1,798.28 Tonnes	3,275,439.30												
12 カボチャ	100.00	3,000.00 Tonnes	2,250,000.00												
13 ランプータン	170.00														
14 砂糖	128,142.70	9,789,600.00 Tonnes	266,698,777.92												
15 スイカ	60.00	2,250.00 Tonnes	1,800,000.00												
	613,283.60		\$714,966,240.81												

出典 Queensland Primary Industries & Fisheries's north region/Queensland Government

Atherton Tablelands に分類される地域の気候の状況は次の通り。

図 69 Atherton Tablelands に分類される地域の気候の状況

Sub-region	Temperature		Rainfall		
	Max °C	Min °C	Average (mm)	Decile 9 (mm)	Decile 1 (mm)
<i>Atherton Tablelands</i>					
Herberton	25.4	14.4	1146.8	1619.6	724.3
Atherton	26.0	14.5	1413.4	2062.6	990.6
Kairi	25.2	15.6	1278.3	1958.7	789.2
Dimbulah	31.5	16.6	787.4	1140.4	475.5
Walkamin	27.2	17.0	1034.8	1463.7	644.1
Mareeba	28.8	16.1	922.7	1349.1	583.9
Average	27.35	15.7	1097.23	1619.6	701.27

出典 Queensland Primary Industries & Fisheries's north region/Queensland Government

アサートン高原の小地区には、Wet Tropics バイオリージョンの西縁部と Einasleigh バイオリージョンの北側が含まれる。広大な高原地帯は、玄武岩由来の肥沃な土壌により、ユーカリと熱帯雨林の植生を支えている。開墾前、モザイク状の閉鎖林群落は、より降水量の多い玄武岩質土壌の地域に集中しており、ユーカリの疎林及び森林は、より乾燥した地区に生息していた。現在、熱帯雨林地域は、Wet Tropics 世界遺産地域(Wet Tropics World Heritage Area)に含まれたことにより、保護されている。世界遺産地域には、借地と所有地だけでなく、国立公園や国有林などの王室御料地も含まれる。世界遺産地域は、アサートン高原の約 10%を占めるとともに、この地域の大半が国有保安林であり、そのうち約 5,000ha が保護されている。

アサートン周辺によく構成された高粘土質の赤色土(ferrosol)は、非常に肥沃で汎用性があり、これらの土壌では様々な作物が栽培されている。歴史的に、これらの土壌では、雨育トウモロコシ(rain grown maize)、ピーナッツ、白インゲン豆及びジャガイモが交代で生産されており、一部の地域では補完的灌漑向けの地下水供給量が少なかった。昨今、温度が適切で、補完的灌漑が利用可能な場合には、アボカドやバナナなどの高価値園芸作物が栽培されている。現在、一部の地域の地下水供給は約束されている。

穀類作物は、酪農及び飼料産業において利用されている。

花崗岩由来の砂壤土で生産される他の作物には、様々な農作物や園芸作物が含まれる。当該地域では、熱帯性の牧草種子及び干し草が生産されている。

タバコ、乳製品及びティーツリー産業における再編によって、ごく最近、この小地区に重要な課題がもたらされた結果、タバコ産業が撤退することとなった。

Mareeba-Dimbulah 灌漑地域(Mareeba-Dimbulah Irrigation Area:MDIA)は、4万 1,500ha に及び、そのうち 2万 2,150ha は Lake Tinaroo から水の供給を受けている。Lake Tinaroo は、灌漑に利用可能な水を年間 20万 5,000ML 産出している。約 402 件の農場が水路系から供給を受け、それ以外の 395 件の農場が補足水路(supplemented stream)からの私的導水により水を引いている。

MDIA は元々、タバコ及び牧草生産のため、1960 年代に開発された。平均的な農場規模は 40 ヘクタールと、歴史的なタバコ産地の中でも比較的小さく、2000 年にタバコ産業が撤退した後、存続を維持するのは困難であった。多くは、園芸、特に、土壌が適しているマンゴー、ライチ及びライフスタイル園芸(lifestyle horticulture)に手を広げた。これらの作物の大部分は、散布、マイクロスプレーまたは細流灌漑によるものである。

当該地域は、コーヒーの生産に適していることがわかり、4つのプランテーションが設立された。

Atherton Tablelands 地域の農産物の生産状況は次の通り。

図 70 Wet Tropics 地域の農産物の生産状況(2007-2008 年度)

概要				収穫時期											
農業活動	面積 (ha)	販売量	粗利益 (\$)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1 アボカド	749.33	6,744.00 Tonnes	22,929,600.00												
2 バナナ	735.00	19,767.00 Tonnes	33,195,461.54												
3 畜産業	40,000.00	21,700.00 Head	23,173,495.76												
4 柑橘類	310.00	5,649.44 Tonnes	7,388,335.20												
5 コーヒー	220.00	330.00 Tonnes	1,815,000.00												
6 乳製品	12,480.00	75,160,800.00 Litres	37,580,400.00												
7 イネ科/マメ科種子	3,916.58	2,356.30 Tonnes	12,959,650.00												
8 乾草	3,000.00	150,000.00 Bales	3,000,000.00												
9 龍眼	134.75	1,042.29 Tonnes	5,211,456.25												
10 ライチ	322.65	1,897.50 Tonnes	9,437,493.51												
11 トウモロコシ	5,000.00	35,000.00 Tonnes	9,398,550.00												
12 マンゴー	2,492.43	26,170.54 Tonnes	53,200,970.27												
13 パパイア	162.00	17,058.60 Tonnes	22,307,400.00												
14 ピーナッツ	1,500.00	7,050.00 Tonnes	5,781,000.00												
15 ジャガイモ	2,348.00	82,180.00 Tonnes	50,746,150.00												
16 豚肉	20.00	13,638.00 Head	3,685,762.00												
17 鶏肉	40.00	8,000,000.00 Head	4,456,000.00												
18 カボチャ	180.00	5,400.00 Tonnes	4,050,000.00												
19 砂糖	7,400.00	666,000.00 Tonnes	19,086,228.00												
20 茶	750.00	2,625.00 Tonnes	2,625,000.00												
21 スイカ	80.00	3,000.00 Tonnes	2,400,000.00												
	81,840.73		\$334,427,952.52												

出典 Queensland Primary Industries & Fisheries's north region/Queensland Government

Gulf に分類される地域の気候の状況は次の通り。

図 71 Gulf に分類される地域の気候の状況

Sub-region	Temperature		Rainfall		
	Max °C	Min °C	Average (mm)	Decile 9 (mm)	Decile 1 (mm)
<i>Gulf</i>					
Croydon	33.9	20.4	732.3	1026.2	434.6
Georgetown	32.6	18.4	819.6	1199.8	462.4
Burketown	32.3	20.0	767.2	1218.2	377.1
Normanton	33.4	21.4	919.7	1303.5	535.2
Karumba	30.8	20.2	911.3	1236.9	567.5
Average	32.6	20.08	830.02	1196.92	475.36

出典 Queensland Primary Industries & Fisheries's north region/Queensland Government

Gulfでは、主に4つの商業的漁業が確立されている。

- 北部エビ漁業(northern prawn fishery)
- 河口・沿岸網漁業
- ライン漁業(line fishery)
- カニ漁

北部エビ漁業(トロール網)は、豪州で最も重要な連邦管轄漁業(Commonwealth fishery)であり、総漁獲額は9,000万ドルを超える。漁獲量は、幅広く変動し、洪水現象や、マングローブの生態及び沿岸の海草系の健全度に大きく影響される。河口・沿岸網漁業には、約85名のライセンスを所有する商業漁師が従事しており、歴史的にバラマンディをターゲットとしてきた。さらに、遊漁も重要である。

Cape York に分類される地域の気候の状況は次の通り。

図 72 Cape York に分類される地域の気候の状況

Sub-region	Temperature		Rainfall		
	Max °C	Min °C	Average (mm)	Decile 9 (mm)	Decile 1 (mm)
<i>Cape York</i>					
Cooktown	29.5	21.7	1706.2	2382.7	1316.7
Coen	31.1	20.8	1191.7	1539.8	699.3
Moreton Telegraph	32.0	20.0	1386.3	1671.1	983.1
Lockhart River	29.8	21.8	2129.6	3012.0	1453.9
Weipa	32.3	21.8	1767.8	2294.9	1259.6
Old Mapoon	32.5	20.7	1563.3	2173.3	1097.6
Thursday Island	30.2	24.2	1716.5	2123.8	1230.1
Average	31.06	21.57	1637.34	2171.09	1148.61

出典 Queensland Primary Industries & Fisheries's north region/Queensland Government

当該地域の多くは、緩やかに起伏する平野及び台地が占め、その土壌は比較的深い砂質土であるが、低栄養状態である。主要な植生は、'サバンナ森林(savannah woodlands)'である。一般的には、ダーウィン・ストリンギーバーク(Darwin stringy bark)(Eucalyptus tetradonta)及び長草型下層(tall grass understorey)を伴う関連するユーカリ種である。さらに下層の領域は、多くの場合、ペーパーバーク(Melaleuca viridiflora)森林を支えている。沿岸寄りには、マングローブ、湿地帯、ツル林、抛水林、草原及びその他の多種多様な沿岸群系を幅広く支える河口・沖積平野がある。砂岩を主体として、火山地質も、ユーカリ属及び Corymbia 属の森林、ならびに分散・混合したツル種の林を支える生息域及び小高い丘を形成する。

2.5.4 北部西オーストラリア州

西オーストラリア州では農産物生産に占める輸出を前提とした小麦・大麦の生産量が多く、野菜の生産状況は次の通り。

なお、北部地域(Ord River 地域)における農産物の生産等に関する情報は把握されていない。

図 73 西オーストラリア州における野菜の生産状況

種類	野菜名	生産額 (ドル)	生産面積 (ヘクタール)	農地数	生産量 (トン)
アブラナ科	ブロッコリー	18,761,723	696	53	5,850
	芽キャベツ	376	<1	1	<1
	キャベツ	5,617,017	178	32	7,156
	カリフラワー	5,474,144	408	34	6,798
	白菜(チンゲン菜、白菜)	380,656	18	10	108
ウリ科	キュウリ	4,955,222	57	46	1,297
	ハネデューメロン	3,711,468	141	19	3,130
	カボチャ、トリアンブル、トロンボーン等	14,360,855	778	147	18,527
	ロックメロン、カンタループ	10,616,558	488	49	10,105
	スイカ	13,547,701	571	90	17,274
	ズッキーニ、マロー、トウナス	3,249,878	102	62	1,538
結実野菜	トウガラシ、チリ・ペッパー、コショウ	9,290,091	186	97	3,029
	ナス	943,160	25	39	254
	トマト	29,725,490	393	114	19,540
ハーブ類	ハーブ- その他(バジル、コリアンダー等)	87,429	2	10	12
	バセリ	376,603	4	15	72
葉物野菜	レタス	11,426,297	594	38	14,400
	フダン草、ホウレンソウ	832,900	99	27	463
その他野菜	ニンジン	53,652,038	1,220	29	80,770
	セロリ	8,576,222	235	14	11,116
	フェネルの球根(フィノッキオ)	285	<1	2	<1
	サヤインゲン、ベニバナインゲン	9,181,892	393	48	1,643
	ニンニク	393,589	10	29	29
	グリーンピース	81,115	7	9	11
	セイヨウネギ	162,333	8	25	61
	タマネギ- 合計(白、茶、赤)	22,493,626	326	26	19,584
	アメリカボウフウ	970,632	15	18	220
	サヤエンドウ	301,972	15	7	50
	新タマネギ、エシャロット	1,418,468	23	10	466
	スウェーデンカブ、カブ	753,684	14	6	299
	スイートコーン	20,454,402	298	17	7,799
	サツマイモ	45,716	1	7	22
	イモ類	ジャガイモ	59,644,520	1,802	89
合計		311,488,062	9,107	456*	320,126

出典 Vegetable Production in WesternAustralia/Horticulture Australia

2.6 漁業の状況

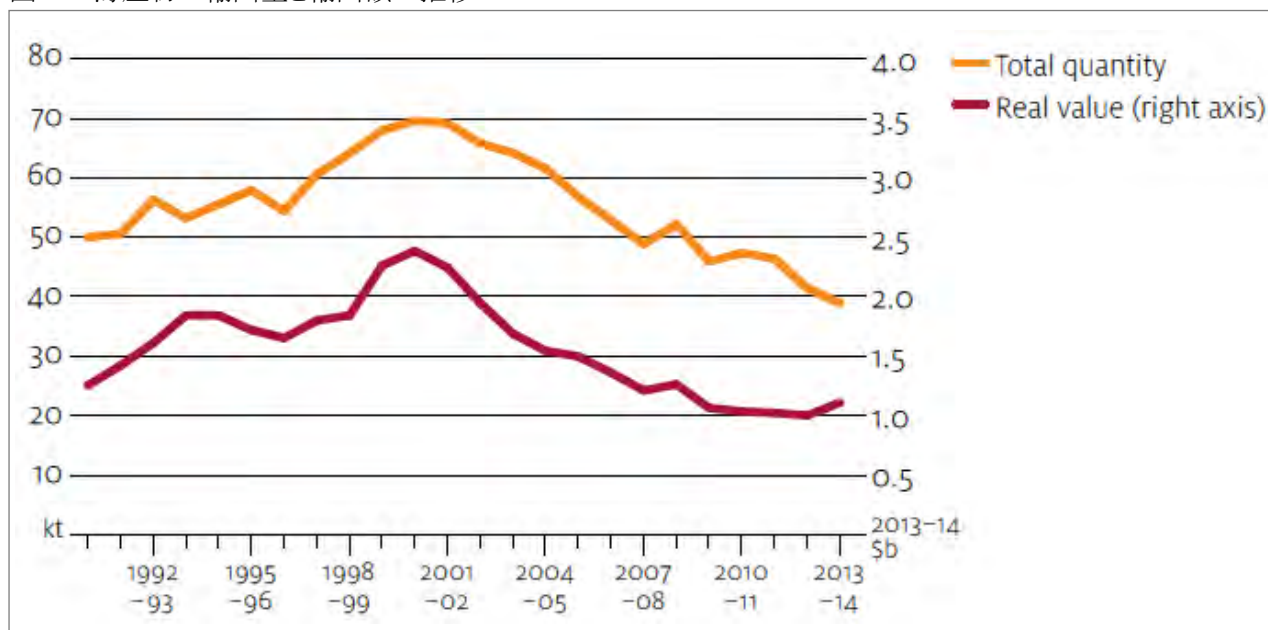
豪州の水産・養殖業は、マイナーなグローバル・プレイヤーであり、生産量は世界の水産・養殖品供給量の0.2パーセント未満である。しかし同国の産業はさまざまな高単価の水産・養殖品を輸出しており、2013-14年度には生産額のおよそ46パーセントが輸出されている。豪州は日本向けミナミマグロや香港・中国向けアワビを提供する有数のサプライヤーである。豪州は(ニュージーランド、米国と共に)中国・香港向け非冷凍ロブスター製品の有数のサプライヤーである。

豪州における水産・養殖業の貿易は、為替レートや、成長するアジアの水産・養殖市場に近接していること、また高単価水産・養殖品の信頼できる高品質のサプライヤーとして評価されていること、といったいくつかの要因が原動力となっている。主要輸出市場における人口、所得水準、都市化動向や嗜好の変化もまた重要な要因である。豪州と貿易相手国間の貿易協定の変更や競合する輸出国のマクロ経済要因を含むその他の要因もまた、世界市場における豪州の全般的な競争力に影響している。

豪州の水産物輸出額・輸出量は1990-91年から2000-01年まで増加していたが、その後2000-01年から2013-14年の間は減少を見せた。この減少は、エビ(5,069トン)、マグロ(3,761トン)、イセエビ(5,378トン)の輸出量減少によるものである。総輸出量は41%減少した。同期間に、主に豪ドル高による輸出単価への負の影響の結果、輸出額は58%減少した。

2004-05年以前は、日本が豪州の水産・養殖品の主要輸出先であった。その後、中国、香港、ベトナムが取って代わるようになった。中国は、同国の豪州からの水産・養殖品の多くを香港やベトナムを経由し入手している。2013-14年の豪州産水産・養殖品(食用および非食用)の金額ベースでの主要輸出市場は、ベトナム(5億6,600万ドル)、香港(2億8,300万ドル)、日本(2億8,300万ドル)、米国(4,100万ドル)、中国(4,000万ドル)であった。

図 74 海産物の輸出量と輸出額の推移



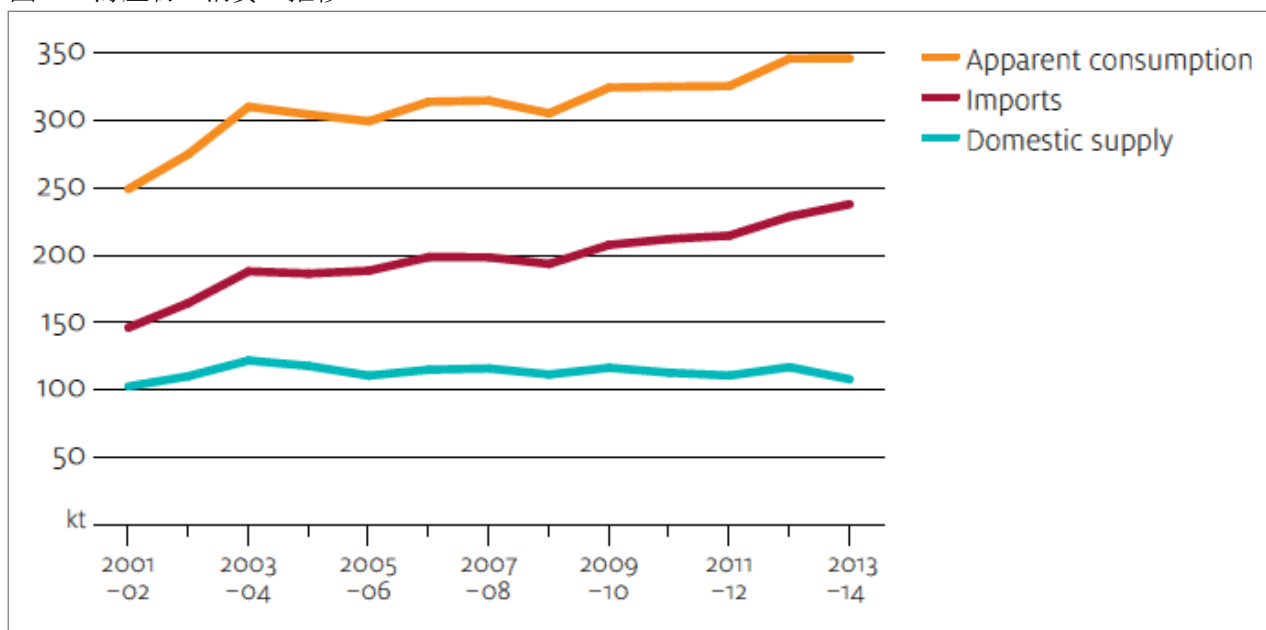
出典 Australian fisheries and aquaculture statistics 2014/ABARES

豪州における水産物の消費量は、2000-01年から2013-14年の間に年平均3パーセントの伸び率で増加しており、2000-01年には248,515トンであったが2013-14年には345,514トンとなっている。同期間中の国内の水産物供給量は、年平均1パーセントの伸び率でよりゆっくりとした増加を見せている。

輸入水産物は、水産物需要量と現地の水産物供給量のギャップを埋める形で増加している。

豪州の水産物輸入量は年平均4パーセントの伸び率で増加しており、2000-01年には143,849トンであったが2013-14年には237,511トンとなっている。同期間における金額ベースでの最大の輸入品は、調理した魚(prepared fish)および保存に適する処理をした魚(preserved fish)であり、その多くは、ツナ等缶詰の魚、冷凍魚、冷凍エビ、調理エビ、保存処理されたエビである。豪州における水産物の総消費量で輸入品が占める割合は、2000-01年に58パーセントであったのに対し、2013-14年には69%となっている。

図 75 海産物の消費の推移



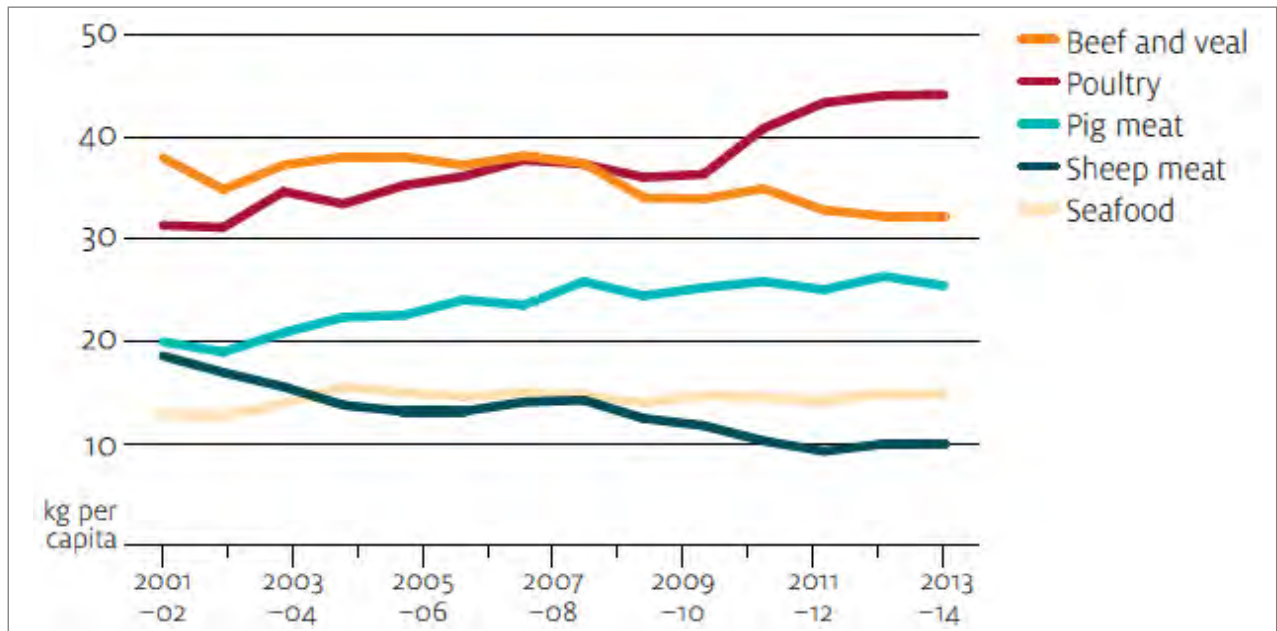
出典 Australian fisheries and aquaculture statistics 2014/ABARES

牛肉、鶏肉、豚肉、羊肉、水産物以上5種類のうち、水産物の消費量は4位となっている。

2000-01年から2013-14年の期間、豪州における1人当たりの肉総消費量で最大の割合を占めているのは鳥肉および牛肉・仔牛肉である。しかし牛肉・仔牛肉は2006-07年以降は減少している。

これとは対照的に、豚肉および鳥肉の1人当たりの消費量は、2000-01年から2013-14年の間にそれぞれ年平均2パーセント、3パーセントの伸び率で増加している。現在では1人当たりの水産物消費量が羊肉・子羊肉の消費量を越えており、水産物消費量は2003-04年以降概ね一定を保っている。

図 76 一人当たりの食品別消費量の推移



出典 Australian fisheries and aquaculture statistics 2014/ABARES

対照的に、主にタスマニア州で生産される養殖サケ類の生産額・生産量は大幅に増加している。同期間中、養殖サケ類の生産額は 194 パーセント(3 億 5,800 万ドル)増加し、生産量は 151 パーセント(25,161 トン)増加した。

2011-12年から2013-14年の期間で生産量が最大であった水産品はサケ類であった。2003-04年から2010-11年の期間では、比較的安価な商品である Australian sardine が最大の生産量を持つ単一種であった。

図 77 種別漁獲量と漁獲高(2013-2014 年度)(%は対前年比)

魚類種	漁獲高
サケ類	41 846 tonnes (down 3%)
Australian sardine	35 867 tonnes (down 7%)
エビ	24 902 tonnes (up 18%)
カキ	11 402 tonnes (down 8%)
マグロ	10 688 tonnes (up 1%)

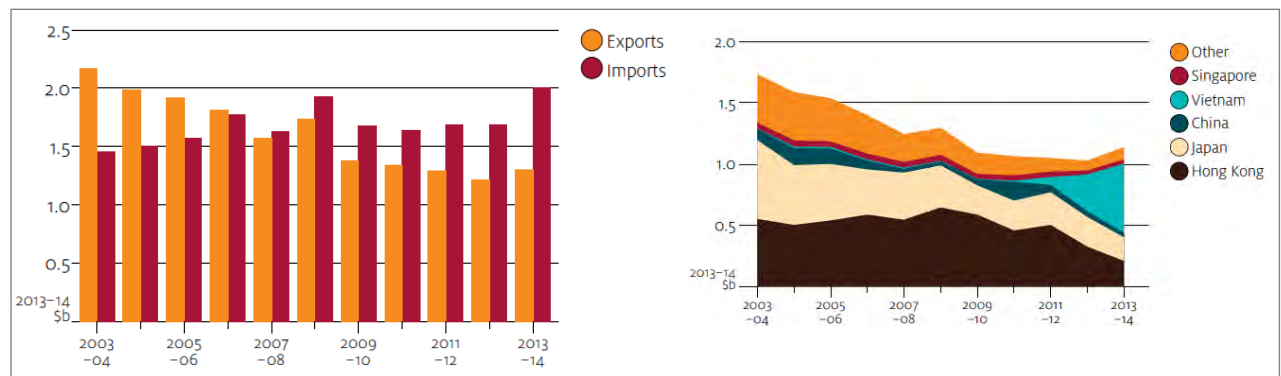
魚類種	漁獲高
イセエビ	\$586 million (up 33%)
サケ類	\$543 million (up 5%)
エビ	\$337 million (up 22%)
アワビ	\$165 million (down 7%)
マグロ	\$147 million (down 17%)

出典 Australian fisheries and aquaculture statistics 2014/ABARES

2013-14年、豪州の漁業総生産量は4パーセント(8,817トン)減少し、227,123トンであった。この数字には、ミナミマグロ漁場(Southern Bluefin Tuna Fishery)で捕獲され、南オーストラリア州の養殖場に持ち込まれたミナミマグロは含まれていない。豪州の漁業生産総額は、2013-14年には4パーセント(8,400万ドル)増加し25億ドルとなった。これは主に、西オーストラリア州および連邦の野生捕獲漁業生産額増加と、タスマニア州の養殖生産額増加によるものである。

豪州は2007-08年には金額ベースで水産・養殖品の純輸出国となった。この状況は2013-14年も続き、輸入額は2012-13年と比較して3億5,300万ドル(21パーセント)増加した。輸出額は、2008-09年以降初めて上昇し、1億2,900万ドル(11パーセント)の増加を見せた。しかし、輸入額の増加に伴い、純輸入額が増加した。2013-14年の豪州の水産物総輸出額は13億ドルであった。魚類、甲殻類、軟体動物といった食用水産・養殖品の輸出額は11億ドルで、総輸出額の87パーセントを占めた。真珠、魚粉、水産油脂といった非食用水産・養殖品の輸出が水産物総輸出額の残りの13パーセント(1億6,600万ドル)を占めた。

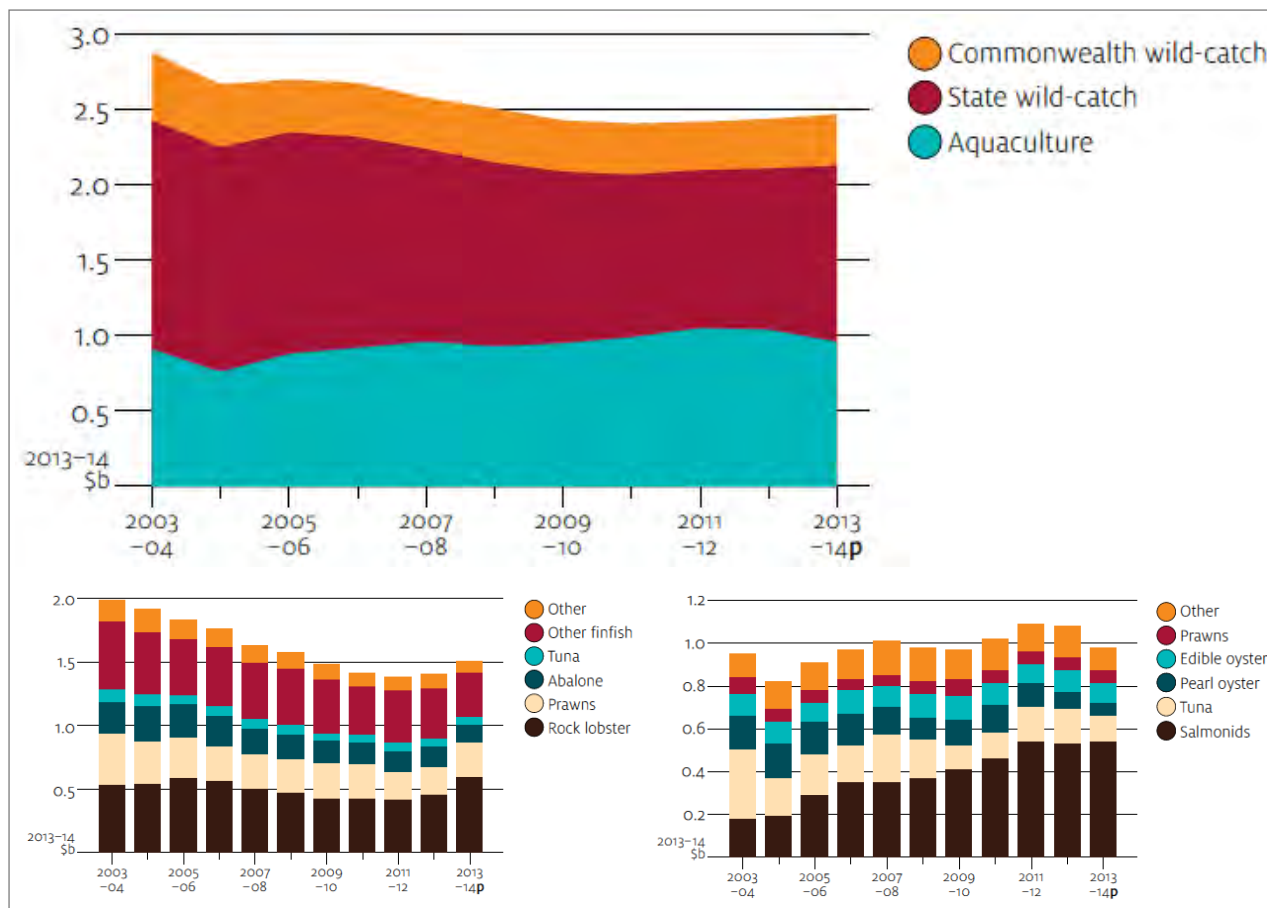
図 78 海産物の輸出入のバランス



出典 Australian fisheries and aquaculture statistics 2014/ABARES

ベトナムが豪州の食用水産・養殖品の主要輸出先となっており、2013-14年の食用水産・養殖品総輸出額の50パーセントを占めている。食用水産・養殖品のベトナム向け輸出額は、2012-13年から2013-14年の期間に2億9,300万ドルから5億6,600万ドルへ、93パーセント増加している。同期間に輸出された主な食用水産・養殖品はイセエビとエビであり、これらを合わせると金額ベースでベトナム向け食用水産・養殖品総輸出額の92パーセントを占める。非冷凍イセエビはベトナム向けの最も重要な輸出品であり、総輸出額の86パーセント(4億8,700万ドル)を占めている。またベトナムは、2013-14年に豪州がイセエビから得た輸出収益のうち83パーセントを占めている。

図 79 漁獲量の種別推移



出典 Australian fisheries and aquaculture statistics 2014/ABARES

一北部準州

北部準州における2013-14年の漁業生産額は4,600万ドルで、2012-13年から21パーセント(1,200万ドル)の減少であった。野生捕獲生産額は3,100万ドルで、北部準州の総生産額の67パーセントを占めた。養殖部門は1,500万ドルで、残りの33パーセントを占めた。2012-13年と2013-14年の間に総生産量は6パーセント(360トン)増加した。

□野生捕獲

2013-14年に北部準州の野生捕獲部門の漁獲量は約8パーセント減少し、水産・養殖品の総計は455トンであった。野生捕獲生産額は10パーセント(300万ドル)減少し、3,100万ドルであった。これは主にマッドクラブ(mud crab)(200万ドルの減少、27パーセント)やバラマンディ(100万ドルの減少、28パーセント)生産額の価格の下落によるものである。2013-14年の野生捕獲総生産額の15パーセントをマッドクラブが占めており、それにサバ(14パーセント)、ゴールドバンドスナッパー(13パーセント)が続いている。

□養殖

北部準州における2013-14年の養殖生産額は、2012-13年に比べ36パーセント(900万ドル)減少した。なお、2013-14年の生産額の種別内訳については、守秘義務により提供されていない。

—クイーンズランド州

2013-14年におけるクイーンズランド州の漁業総生産額は、生産量が12パーセント減少し27,231トンになったのにもかかわらず、1パーセントの増加を見せ2億8,000万ドルであった。野生捕獲生産はクイーンズランド州の漁業生産の大半を占めており、総生産額のうち1億9,100万ドル(68パーセント)、総生産量のうち20,785トン(76パーセント)を占めている。養殖部門は総生産額の残りの32パーセント(8,900万ドル)、総生産量の24パーセント(6,446トン)を構成している。

□野生捕獲

2003-04年から2013-14年までは、クイーンズランド州の野生捕獲による最大の水産品はエビであった。2013-14年には推定5,988トンのエビが収穫されたが、2012-13年と比較すると2パーセント(106トン)の減少であった。その結果、2013-14年の野生捕獲によるエビの生産額は2012-13年に比べ2パーセント(160万ドル)増加し7,000万ドルであった。エビ生産額の増加は、主にクルマエビ(tiger prawn)やテンジククルマエビ(banana prawn)の漁獲高の増加によるものである。

カニは2013-14年にクイーンズランド州で捕獲された種のうち2番目に価値の高い種である。総計2,793トンが水揚げされたが、それは野生捕獲部門の総生産額のうち3,000万ドルを占めている。これは2012-13年に比べ1パーセント(30万ドル)の増加である。クイーンズランド州の野生捕獲部門において水揚げされたその他の主な種には、スジアラ(coral trout)(2,700万ドル、840トン)、ロブスター(主にクイーンズランド・バグ(Queensland bugs))(2,000万ドル、818トン)、バラマンディ(700万ドル、813トン)、ホタテガイ(500万ドル、2,514トン)が含まれる。

2013-14年にスジアラとロブスター(主にクイーンズランド・バグ)の生産額が増加した一方で、バラマンディとホタテガイの生産額は減少した。全体としては、主にバラマンディとホタテガイの減少により、クイーンズランド州の野生捕獲による総生産量は2パーセント(500万ドル)の減少となった。

□養殖

養殖生産額は2013-14年に9パーセント(700万ドル)増加し、8,900万ドルになったが、それは主に生産量が5パーセント(306トン)増加したことによる。2013-14年に最も高価値であった養殖製品は養殖エビで5,900万ドル、クイーンズランド州の養殖総生産量の66パーセントを占めた。これに養殖バラマンディ2,500万ドル(28パーセント)、シルバーパーチ(silver perch)(100万ドル、1パーセント)、レッドクロウ(redclaw)(100万ドル、1パーセント)が続く。

ボリュームベースでは、クイーンズランド州の養殖生産量のうち、養殖エビとバラマンディがそれぞれ3,487トン、2,682トンを占めた。2012-13年に比べると、エビの生産量は32トン(1パーセント)減少し、バラマンディは363トン(16パーセント)増加した。

—西オーストラリア州

西オーストラリア州における2013-14年の漁業総生産額は4億9,000万ドルで、2012-13年と比べると15パーセント(6,300万ドル)の増加となった。西オーストラリア州の漁業総生産額には、同州の漁業総生産額の85パーセントを占める4億1,700万ドルの野生捕獲生産と7,300万ドルの養殖生産(残りの15パーセント)が含まれる。漁業総生産量は2013-14年に2パーセント(416トン)減少し、19,961トンであった。2013-14年に増加した生産額は野生捕獲部門によるものである。

□野生捕獲

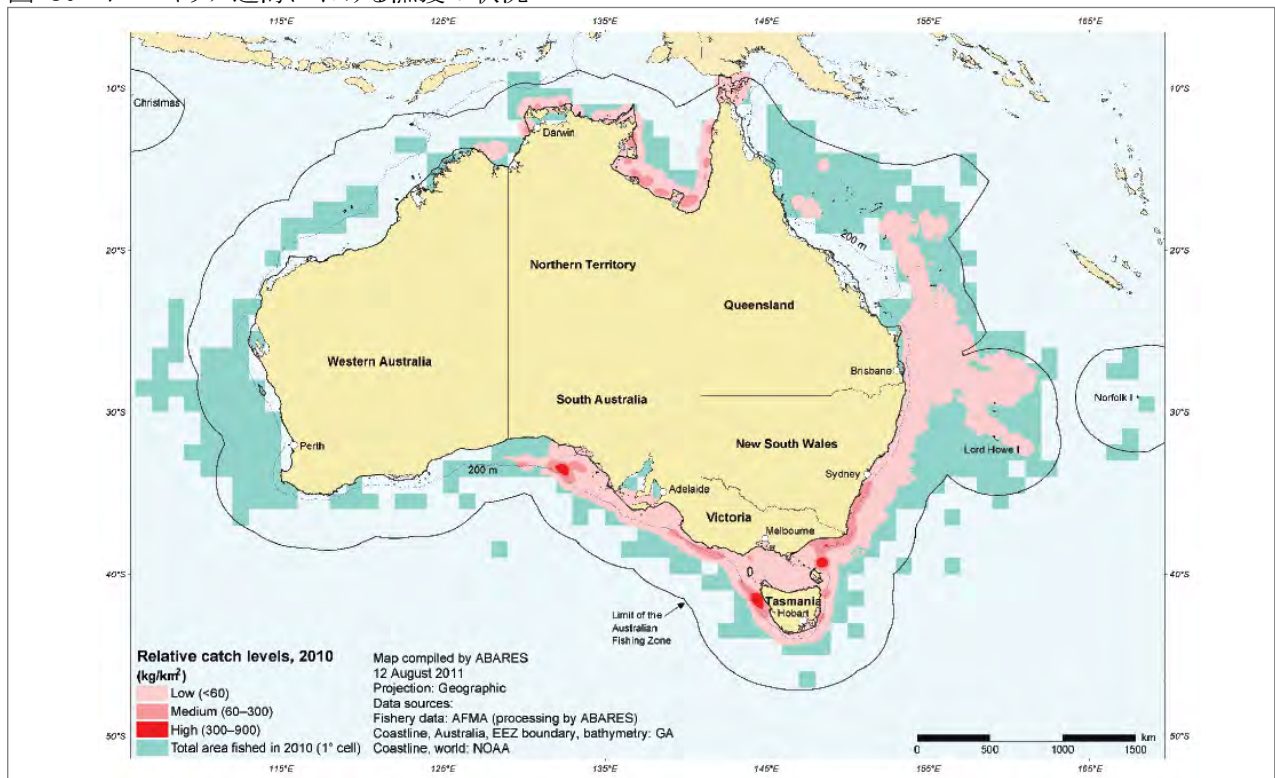
2013-14年における西オーストラリア州の野生捕獲部門生産額は26パーセント(8,600万ドル)増加したが、これは主にオーストラリアイセエビ(western rock lobster)生産額が35パーセント(8,400万ドルから3億2,100万ドルへ)増加した結果である。これは、オーストラリアイセエビの平均単価が40パーセント上昇したことによる。

その他の野生捕獲による甲殻類は、生産額、生産量ともに増加を見せた。エビの生産額は35パーセント(900万ドル)、カニの生産額は22パーセント増加した。これらの増加はどちらも生産量が増加した結果である。2013-14年にはエビの生産量が27パーセント(619トン)、カニの生産量は64パーセント(281トン)増加した。逆に、大半の魚類の生産額が減少した。これらには、オオヒメ(tropical snapper)(15パーセント減少し200万ドル)、オーストラリアマイワシ(Australian sardine)(33パーセント)、フエフキダイ(emperor)(15パーセント)が含まれる。

□養殖

野生捕獲生産とは対照的に、西オーストラリア州における養殖生産額は2013-14年に24パーセント(2,300万ドル)減少し、7,300万ドルであった。これは主に、同州で最も価値の高い真珠の生産額が23パーセント(1,800万ドル)減少したことによる。真珠は2013-14年の養殖総生産額の約83パーセント(6,100万ドル)を占めている。食用養殖が残りの17パーセントを占めている。西オーストラリア州における食用養殖は、主にマロンザリガニ(marron)、ムール貝(mussels)、魚種で構成されている。養殖におけるこの構成要素は近年増えつつある。しかし、2013-14年の食用養殖の生産額は26パーセント(400万ドル)減少し、1,200万ドルであった。これは主に養殖魚種の生産額の減少(37パーセント、500万ドル)による。

図 80 オーストラリア近海における漁獲の状況



出典 National Food Plan, Green paper 2012/オーストラリア連邦政府

2.7 肉牛産業の状況

肉牛生産は、豪州において主要な農業活動である。2013～2014 年の間、肉牛産業は、牛肉・仔牛肉で 75 億ドル、生体牛輸出(家畜または食肉処理目的)で 7 億 8,000 万ドルの生産高をあげ、全農産物の生産高の 16%を占めた。さらに、豪州は、主要な肉牛輸出国でもある。現在、世界第 3 位の肉牛輸出国であり、通常、生産量の約 3 分の 2 が輸出される。

図 81 オーストラリアにおける肉牛産業の概況(2013-2014 年度)

カテゴリ	単位	NSW ^a	Vic.	Qld	SA	WA	Tas.	NT	Australia
肉牛 ^b	'000s	5 331	2 428	12 755	1 110	1 973	534	2 164	26 296
農場									
肉牛専門農場 ^c	no.	13 130	8 178	12 597	1 404	2 283	952	208	38 752
肉牛飼育を含む農場	no.	25 789	14 956	18 153	4 224	3 945	2 525	243	69 836
生産									
屠殺	'000s	2 099	2 095	4 158	430	413	278	0	9 472
牛肉および仔牛肉 ^d	kt cwe	541	459	1 176	117	106	64	0	2 464
牛肉および仔牛肉	\$m	1 527	1 211	3 722	361	335	203	138	7 495
輸出									
牛肉および仔牛肉	kt cwe	309	324	986	78	35	44	0	1 776
牛肉および仔牛肉	\$m	1 112	995	3 591	297	102	168	0	6 265
生体牛 ^e	'000s	10	1	196	46	305	0	439	996
生体牛	\$m	14	1	164	42	236	0	324	780

cwe: 枝肉換算重量。

a: 首都特別地域(ACT)を含む。

b: 乳牛を含まない。

c: フィードロットを含む。2011-12 年の数字。

d: 生体牛輸出は含まない。仔牛肉生産量は一般的に全生産量の約 2 パーセントを占める。

e: バッフアローを含むが、乳牛および繁殖牛は含まない。

出典 Australia's beef supply chains, Infrastructure issues and implications/Australian Government

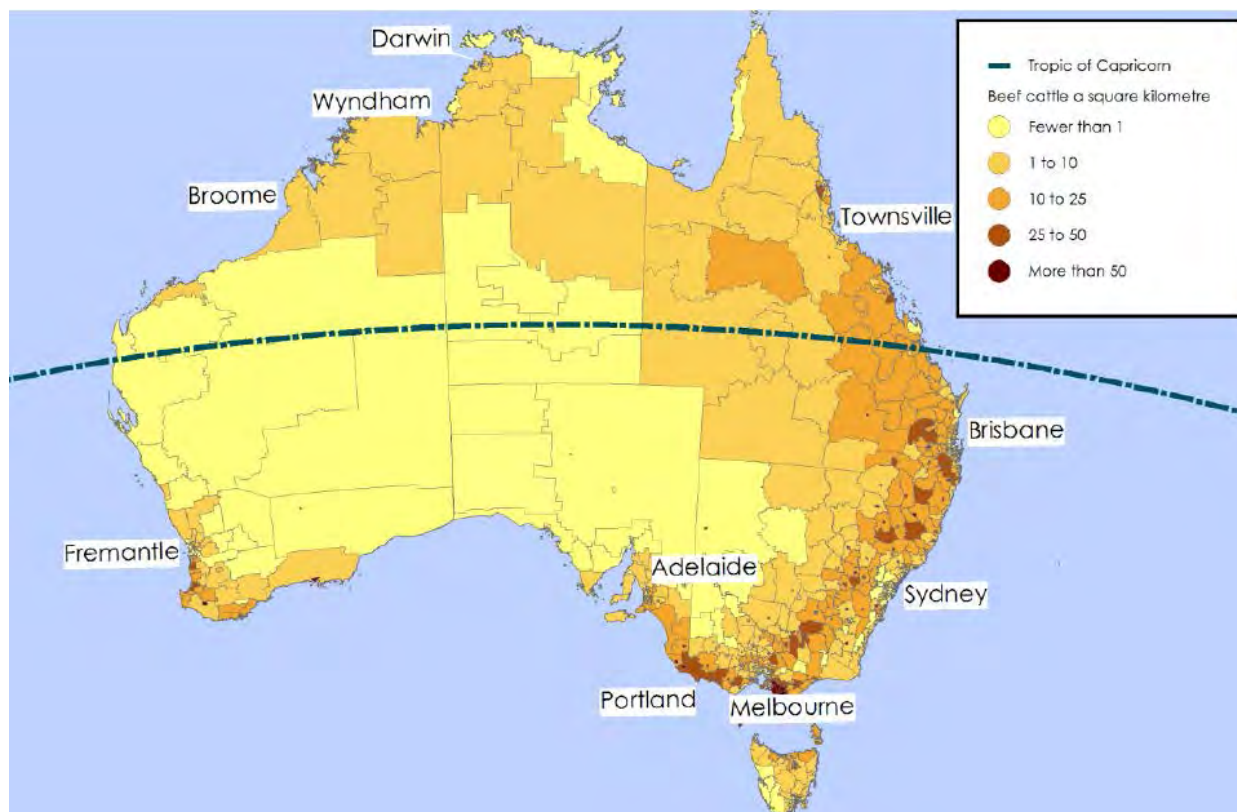
肉牛業を営んでいる農場は、農地の総面積の 75%超、及び豪州の国土面積の 45%を占めている。2013～2014 年においては、豪州の 12 万 8,454 件の農業事業者のうち半数以上が肉牛業を運営しており(ABS 2015a)、そのうち約半数が肉牛生産に特化していた。

クィーンズランド州は、最大の肉牛生産州であり、豪州の畜牛 2,630 万頭のうち 1,280 万頭が飼育されており、2013～2014 年の牛肉生産高は 37 億ドル(食肉処理価格)であった。

ABARES の農場調査データによると、北部豪州で肉牛業を営んでいる農場は、一般的により多角的な南部豪州の農場よりも、畜牛の販売による収益に遥かに依存している。

豪州の肉牛産業従事者数を正確に特定するのは困難である。2011 年の国勢調査データ(ABS 2012b)によれば、フィードロットを含め、畜牛飼育に関連する産業で働く人の数は、約 8 万 3,000 人であった。さらに 3 万 1,000 人が食肉加工に従事していた。また、総従事者数の 3 分の 1 超がクィーンズランド州に所在しており、4 分の 1 がニューサウスウェールズ州に所在していた。

図 82 オーストラリアにおける肉牛産業の分布

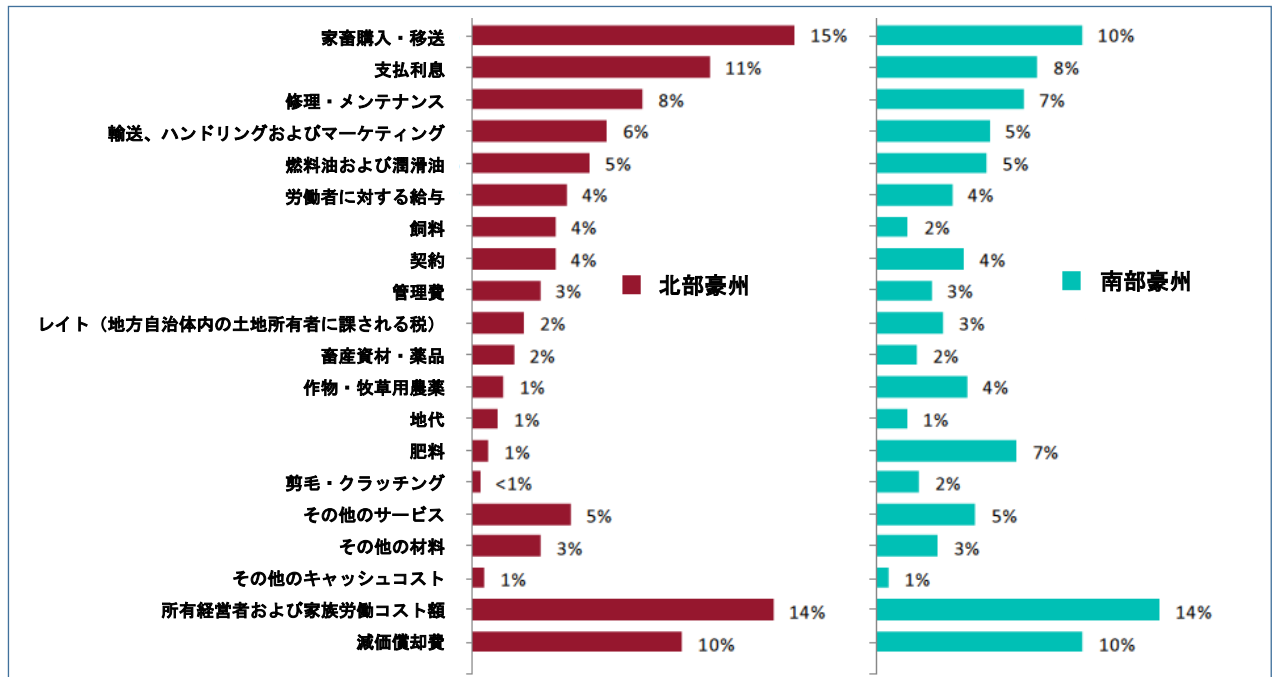


出典 Australia's beef supply chains, Infrastructure issues and implications/Australian Government

北部生産者のコストのうち、畜牛購入、支払利息及び飼料がより高い割合を占めた。南部生産者に関しては、コストのうち作物・牧草用農薬及び肥料がより高い割合を占め、作付けや改良された牧草の使用など、南部州においてより多様な農業活動が行われていることを反映していた。輸送、ハンドリング及びマーケティングは、北部と南部両方の生産者にとって多大なコストを要するものであった。

しかし、ABARES の輸送コスト見積もりでは、農家が自家用トラックを用いて運ぶ畜牛、またはフィードロットなどのバイヤーが支払う畜牛の農外輸送コストは考慮されていない。

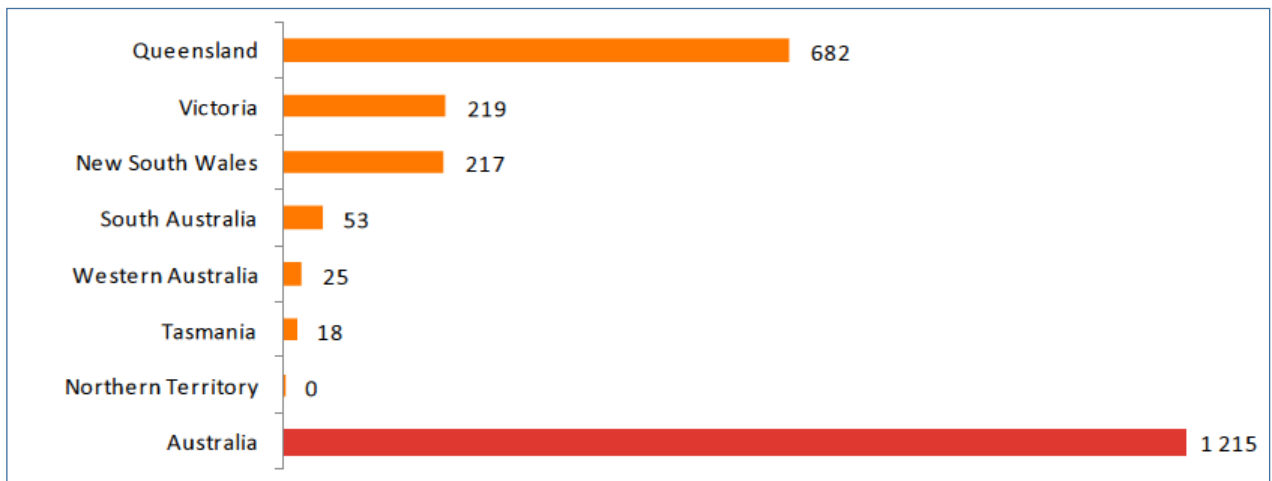
図 83 肉牛生産の地域間コスト比較



出典 Australia's beef supply chains, Infrastructure issues and implications/Australian Government

クイーンズランド州は、主要な肉牛輸出州であり、これにビクトリア州とニューサウスウェールズ州が次いでいる。ブリスベン港 (Port of Brisbane) は、豪州の主要な肉牛輸出港であり、その他の港はメルボルン、シドニー、フリーマントル及びアデレードにある (MLA 2013)。これらの港は、2012～2013 年に豪州の肉牛輸出の 99%超を占めた。

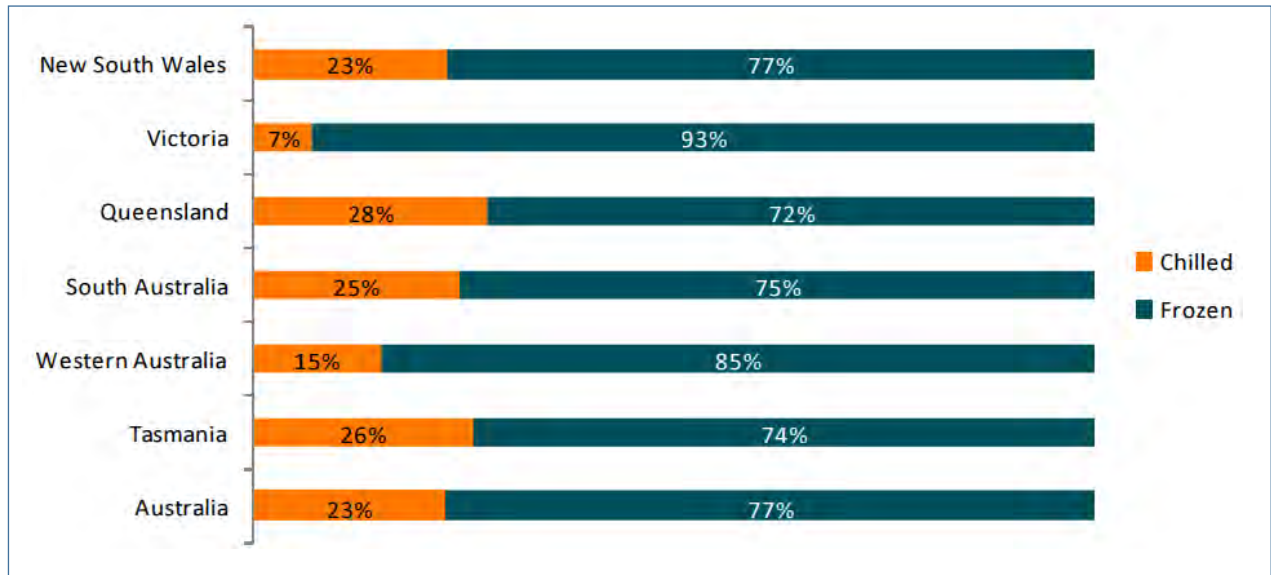
図 84 港別の肉牛輸出量 (2013-2014 年度) (千トン)



出典 Australia's beef supply chains, Infrastructure issues and implications/Australian Government

豪州の肉牛輸出の約 4 分の 3 は冷凍であり、残りはチルドである。チルド肉牛は、一般的に、より価値が高く、国際市場では割増価格が設定される。例えば、2014 年の 9 月期四半期に日本へ輸出された豪州産骨なしチルド牛肉の 1 キログラム当たりの平均価格は、冷凍牛肉が 4.47 ドルであったのに対し、7.25 ドル (FOB 価格) であった (ABARES 2014)。

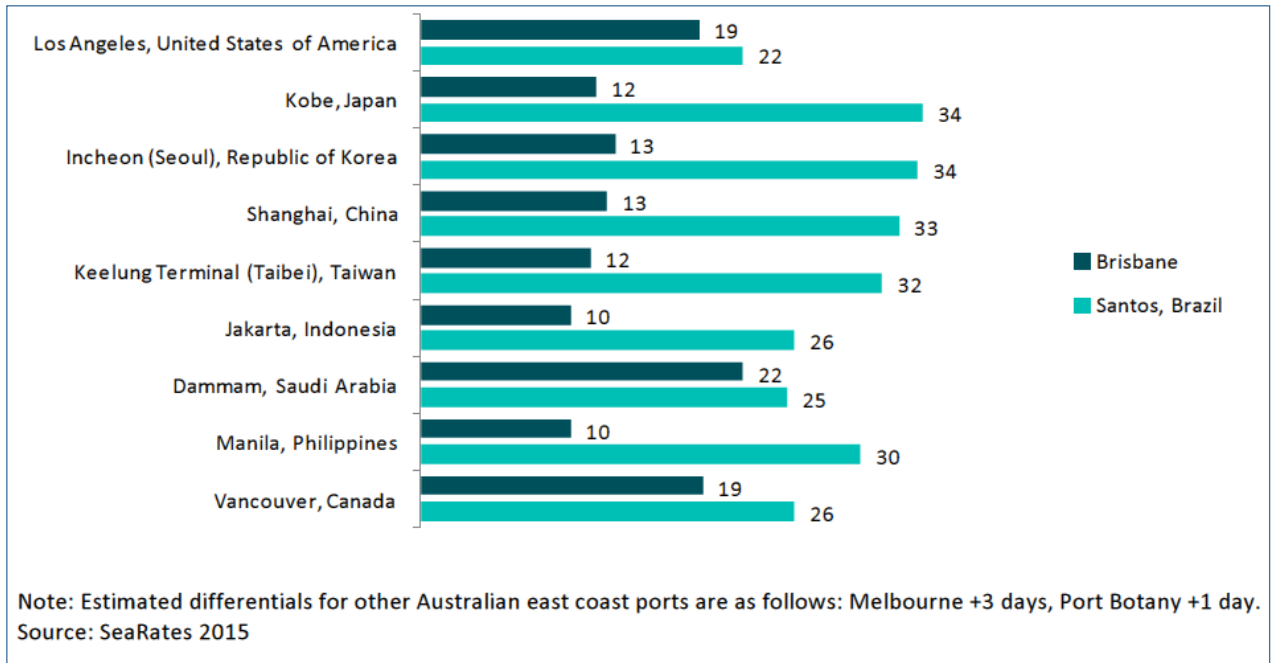
図 85 肉牛輸出に係るチルドと冷凍の比率



出典 Australia's beef supply chains, Infrastructure issues and implications/Australian Government

豪州産牛肉の国際的な需要に影響を与える要因は複数あるが、豪州はアジアに近接していることにより、ブラジルなど一部の主要な競争相手に比べ、運送時間の面で有利である。

図 86 海上輸送に要する時間の比較



出典 Australia's beef supply chains, Infrastructure issues and implications/Australian Government



輸送コストは、肉牛生産者や生体牛輸出業者にとって多大なコストである。例えば、Goucher 社が見積もったところによると、農家がクイーンズランド州中央部の Surat から Toowoomba 周辺の食肉処理場及びブリスベン港を経由して横浜へ肉牛を輸出する場合、輸送コストは高重量輸出グレード (heavy export-grade) 畜牛の平均的な家畜市場価格の約 13%を占め、西オーストラリア州南西部の Gnowangerup から Harvey 周辺の食肉処理場及びフリーマントル港を経由して横浜へ輸出する場合は、約 22%を占めるという。両方のケースに

において、道路輸送は、総輸送コストの約 40%を占め、海上輸送は約 60%を占めた。また、両方のケースにおいて、農場から食肉処理場、港への移動距離は、約 450 キロメートルであった。これらの距離は、北部豪州の一部の農場から港または食肉処理場まで畜牛を輸送する場合に比べ比較的短い。

道路の整備不足により、様々な点でコストが増大しえる。例えば、雨天により、道路は長期間封鎖される場合がある。北部豪州においては、雨季の間、道路網が定期的に分断されるため、農家が畜牛を寄せ集め、生体輸出用の囲い、仕上げ肥育用小農場 (finishing properties) 及び食肉処理場へ移送する能力は低下する。これらの封鎖によって、畜牛の移動が妨げられるか、トラックが代替ルートやより費用のかかるルートを通らざるを得なくなるため、コストの増大または収入の遅れが生じる (Higgins 2013)。豪州の道路網は、41%しか舗装されておらず、地方の舗装道路の割合はかなり低い。

クイーンズランド州は、生産者が生体牛を車または鉄道で輸送するという選択肢を有する豪州で唯一の州である。しかし、近年、鉄道で輸送される畜牛の数は大幅に減少した (純トンキロメートルで測定した場合、約 5%)。

図 87 クイーンズランド州における陸上輸送トラックの輸送量等

車両連結	最長 (メートル)	車種	連結略図 (許可される車軸グループに関してはセクション6.1.3を参照)
1台のトレーラーを牽引するリジットトラック (全長19mを超える)	31.5	Type 1	
牽引棒によって連結された2台のセミトレーラーを牽引する牽引車	36.5	Type 1	
B-トリプル：ターンテーブル連結によって連結された3台のセミトレーラーを牽引する牽引車	36.5	Type 1	
AB-トリプル：変換用ドリーによって連結された、単一のセミトレーラーと1セットのB-ダブルトレーラーを牽引する牽引車	36.5	Type 1	
より長いAB-トリプル： (上述の通り)	44.0	Type 2	(上述の通り)
牽引棒によって連結された2台のセミトレーラーを牽引するリジットトラック	47.5	Type 2	
BAB-クワッド：変換用ドリーによって連結された2セットのB-ダブルトレーラーを牽引する牽引車	53.5	Type 2	
ABB-クワッド：変換用ドリーによって連結された、単一のセミトレーラーと1セットのB-トリプルトレーラーを牽引する牽引車	53.5	Type 2	
牽引棒によって連結された3台のセミトレーラーを牽引する牽引車	53.5	Type 2	

出典 Australia's beef supply chains, Infrastructure issues and implications/Australian Government

2.8 食品加工業の状況

豪州における食品製造は、豪州経済の重要な一部である。同産業は雇用、ビジネス、サービスの機会を通じて地方経済に大きく貢献している。2013-14年の豪州における食品・飲料製造業での雇用は約222,900人で、製造業全体の雇用の23.9パーセントを占めた。

食品・飲料・タバコ製造業は2013-14年に254億ドルの付加価値を生み出したが、これは製造業GDPの25.5パーセント、GDP全体の1.6パーセントにあたる。

2011-12年には、豪州の加工食品・飲料・タバコ業界は約5億4,830万ドルを研究開発に費やした。

豪州は2013-14年に220億ドルを超える加工食品・飲料・タバコ製品を輸出する一方で、139億ドル相当の食品・飲料・タバコ製品を輸入し、82億ドルの貿易収支を生み出している。

□食肉加工業

食肉加工は、全ての州・準州で行われている。それらの業者は東部の州に非常に集中しており、クイーンズランド州(45.3パーセント)、ニューサウスウェールズ州(24.2パーセント)、ビクトリア州(14.8パーセント)が中心となっている。

2010年には、クイーンズランド州は畜牛のほぼ半分に相当する約1,120万頭を占めている。同地域はまた、同国最大規模の法人肉牛ファームの所在地でもある。

食肉処理場は一般的に家畜生産者から近い農村部に位置している。これには多くの利点があり、例えば食肉加工業者にとっては輸送コストが安く、家畜の輸送時間も短くなる(輸送中のあざが減る)。食肉加工業者が農村部に拠点を置くことを促すその他の要素としては、土地のコストの安さや地方自治体の条例等もある。

□水産加工

クイーンズランド州は水産加工施設の最大のシェアを有している。これは北部漁場で収穫されるエビの需要と供給に基づいている。

ニューサウスウェールズ州およびタスマニア州の施設は、小規模事業者の多くが閉鎖したことや大規模業者と合併したことにより、2003-04年以降は大幅に減少している。ニューサウスウェールズ州では、漁業規制の強化や減少する漁業資源がこの傾向に更に拍車をかけた。ところがタスマニア州では、海洋養殖は1990年代に急速に発展し同州の主要産業の一つとなった。その他の第二次産業もまたタスマニア州の海洋養殖業を中心として成長し、同州の経済及び雇用にさらなる利益をもたらしてきた。

南オーストラリア州にある施設の割合は、同州に位置する多数の養殖施設によって大幅に増加した。ビクトリア州および西オーストラリア州の施設の割合は、堅調に推移している。

□牛乳・クリーム加工業

豪州における牛乳生産が過去10年間で約41パーセント成長した一方で、同期間の牛乳消費量は約6.8パーセントしか増えていない。

加工事業者は、東部の州に極めて集中しており、ビクトリア州は2011-12年までの5年間の牛乳生産量の64.2パーセントを占めると予想されている。ビクトリア州に続くのはニューサウスウェールズ州だが、同地域の牛乳生産量は干ばつに左右されるため、牛乳生産量は11.9パーセントをわずかに超えるのみである。この状況はクイーンズランド州や西オーストラリア州でも同様である。

それにもかかわらずニューサウスウェールズ州は消費量では 31.2 パーセントと最も高い割合を占めており、ビクトリア州とクイーンズランド州がそれぞれ 24 パーセント、22 パーセントでこれに続いている。生乳は飲用牛乳に加工されるか、さまざまな乳製品の製造に利用される。飲用牛乳製造と乳製品製造に使用される割合には州によって大きなばらつきが見られる。

□果物・野菜加工業

果物・野菜の加工は豪州の全ての州で行われているが、比較的多くの業者が位置しているのはニューサウスウェールズ州(31.2 パーセント)とビクトリア州(27.3 パーセント)である。タスマニア州においては、同州の野菜生産量の 75 パーセントが加工業者を経由しており、特に同州の北東部や西部においては農家の重要な収入源となっている。

果物・野菜加工業は、首都に集中していないことから、他の製造業とは異なる。歴史的には、果物・野菜加工業者は主な園芸中心地に位置している。ビクトリア州のグルバーン・バレー(Goulburn Valley)やニューサウスウェールズ州のマランビジー灌漑区(Murrumbidgee Irrigation Area)といった地方では、多くの果物・野菜加工業をサポートしている。果物・野菜生産者に近接していると、製品の鮮度を維持しながら輸送コストを最小限に抑える上で役立つ。

□製糖業

製糖事業はクイーンズランド州にかなり集中している。サトウキビの品質は収穫後すぐに低下するため、製糖業者はサトウキビ農場の近くに位置する傾向がある。したがって、豪州のサトウキビ農場の 90 パーセントがクイーンズランド州に位置していることを考えれば、同産業が同州に極端に集中していることは驚くべきことではない。日照量が豊富で年間降水量が多い亜熱帯気候パターンを持つクイーンズランド州は、サトウキビ生産に理想的な気候条件を提供している。またクイーンズランド州にはすぐれたインフラがあり、信頼性の高い灌漑用水を供給できる。

現在クイーンズランド州には、主にバンダバーグ(Bundaberg)周辺や、マッカイ(Mackay)とケアンズの間地域に 16 の粗糖工場がある。また 2 つの製糖所がマッケカイおよびバンダバーグにおいて稼働している。粗糖工場や製糖所は通常、バルク輸送ターミナルの近くに位置している。クイーンズランド州沿岸部に沿って 7 つのターミナルが運営されている。

トロピカル・ノース・クイーンズランド(TNQ)の食品製造・加工業は、以下のサブセクターにおいて、小規模専門業者やニッチ事業者のみならず、大規模の加工業者・製造業者、中・小規模の業者で構成されている。

・酒	・ボトルドウォーター	・チョコレート	・コーヒー
・調味料	・乳製品	・果物	・肉
・ナッツ、シード、米	・パスタ	・シーフード	・サトウキビ
・茶	・野菜	・ケーキ、菓子、ペイストリー	・鳥肉

これらの各カテゴリーには、伝統的な食品や飲料製品だけでなく、認定オーガニック製品、小規模専門店向け製品、ニッチ製品、地域特有の製品といった、さまざまなタイプの製品の加工あるいは製造を行う異なる規模の事業者が存在する。

図 88 食品加工業の強みと弱み

	競争上有利な点	競争上不利な点
製品	<ul style="list-style-type: none"> 同業界では、伝統的製品、小規模専門向け製品、グルメ食材、オーガニック製品、ニッチ製品を含む、高品質で受賞歴のある多様な食品や飲料製品を生産している。 この地域の業界は、いくつかの製品について世界初や業界初を訴求できる。 事業者の大半は、真にユニークなトロピカル・ノース・クイーンズランドの製品を生産するために少なくとも一つは地元の原料を使用している。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界金融危機の影響、観光の低迷、高い運営経費が事業の閉鎖をもたらし、それが同業界の製品ラインナップに影響を与えている。 特定の種類の原料資源あるいは原料へのアクセスが、特定の製品の供給の信頼性に影響を与えている。 いくつかの事業者(例:小規模専門店の事業者)は、その規模により、生産能力あるいは地方市場や国内市場への製品の参入範囲が制限されてしまう。 同産業における高品質の豪州産製品は、低コストの労働力や豪ドル高によって、スーパーのプライベートブランドを含む低価格輸入食品との競争激化にさらされている。
法律と基準	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンスと高品質製品の確保を支援するために、特に低品質・低価格の輸入品に対抗するためのさまざまな法律や品質基準が導入されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 数段階にわたる政府の形式的な手続きやその他の法律遵守要件とその関連コストが、同業界における成長や事業者の施設拡張の妨げとなっている。
インフラと設備	<ul style="list-style-type: none"> 同業界は、関連するインフラ、設備、技術を背景に、さまざまな製品を加工、製造、生産する能力を有し、生産能力を増強するために規模を拡大し、将来的に新たな市場に参入する機会がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 報告されているインフラや設備のギャップが、事業者の今後の成長や新たな市場へアクセスする能力を妨げている。 施設や設備の追加に必要な資本へのアクセスが施設の改善や拡張を制限している。
技術と研究開発	<ul style="list-style-type: none"> 同業界の技術開発には、いくつかの知的財産権が保護された技術が含まれる。 同業界は、研究開発や、業界の成長、革新性、競争力にとっての研究開発の重要性に全力で取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 同業界の事業者の規模が新技術の開発あるいは研究開発活動を行う上での制限要因となる可能性がある。
労働、スキル、トレーニング	<ul style="list-style-type: none"> いくつかの新興・既存産業サブセクターにおいて、広範にわたる多様なスキルと専門知識が開発された。 	<ul style="list-style-type: none"> いくつかのサブセクターにおいて、スキルや専門知識の不足が事業者の能力を制限しているが、同地域のトレーニングコースが十分でないことがさらに追い討ちをかけている。 鉱業部門のような賃金の高い部門と労働者獲得をめぐって競うための能力が限られている。 労働法と時間外労働賃金率が、事業者の存続性や低コストの労働力を持つ国と競うために必要な業界の競争力に悪影響を与えている。
協働	<ul style="list-style-type: none"> 業界内外の協働が、事業者によるスキル共有、市場へのアクセス、市場開発、原料調達を可能にしており、将来の協働のための機会がいくつか存在している。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在のところ同業界では、他事業者との協働・協力を通じて市場へアクセスすること、原料を調達することに多少の抵抗がある。
バリューチェーンとサポートインフラ	<ul style="list-style-type: none"> 業界は、電力、水、土地、道路、鉄道、海港、空港を含む確立された主要インフラによって支えられている。 バリューチェーンの効率性が今後のさらなる改善の機会を有する事業者によって実現されつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> 同地域と国内市場を結ぶ貨物輸送と流通網に係る費用は事業者にとって最大の課題の一つである。 同地域の貨物輸送回廊である Bruce Highway は状態が悪く頻繁に閉鎖されるため、貨物輸送の生産性と南部市場への供給の安定性に影響を及ぼしている。 信頼性が高く十分な水供給へのアクセスが施設拡張や事業者の生産量を拡大する能力に影響を及ぼしている。 土地の入手のしやすさと土地へのアクセスが施設拡張や農業生産量の拡大に影響を及ぼしている。 電力供給の信頼性が生産量の安定性に影響を及ぼしている。

	競争上有利な点	競争上不利な点
地域の立地条件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同地域に拠点がある地元の事業者は、同地域に特有の地元の原料へアクセスできる。 ・ 同地域は、特にアジアの競合との比較において、クリーンで地球にやさしく安全で害虫や病気の少ない農業環境と高品質な農業食品の生産に関し世界的な評価を得ている。 ・ 同気候の熱帯気候は、多くの製品にとって理想的である通年栽培・生産条件に適しており、一貫して高品質な製品の一因となっている。 ・ 同地域はアジアの輸出市場に近接しており、地域外に製品を出荷する事業者にとっては、よりアクセスが容易となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同地域が国内マスマーケットから離れていることは、事業者にとって輸送費用が高いことを意味し、市場へのアクセスが制限される。 ・ 同地域は元来、事業者やバリューチェーンに影響を及ぼす熱帯低気圧や悪天候の脅威の影響を受けやすい。
ブランディングとマーケティング	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同地域は、世界のトロピカル/エキゾチック・フード・ボウル(Tropical/Exotic Food Bowl)として評価されている。 ・ 同地域の食品製造・加工業や入手可能な食品の多様性に関するプロモーションは、確立された地域食品ブランドである「Taste Paradise」に支えられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 業界において事業者がさらに一貫してこの地域食品ブランドを普及させ使用していくことが国内外の市場においてユニークなトロピカル・ノース・クイーンズランド製品をさらに差別化する上で役立つであろう。

出典 Food Manufacturing & Processing Capability Profile for Tropical North Queensland/Department of Employment, Economic Development & Innovation